



上北だより

平成 29 年 1 月 10 日

練馬区立上石神井北小学校
校長 市川 順 康

「工場見学」

校長 市川 順 康

新しい年を迎えるにあたり、皆様の弥栄（いやさか）を心からお祈り申し上げます。

2016年5月に、開校55周年の記念行事を実施しました。2017年からは、次の節目の60周年に向けた出発の一年です。保護者、地域の皆様のご協力をこれからも引き続きよろしくようお願い申し上げます。

さて、先日、5年生と一緒に、社会科見学で「菓子工場」と「自動車工場」に行ってきました。どちらも、高速道路を使えば、東京から1時間から2時間の距離ですが、こんな近いところに、世界に誇る、最新鋭の工場があることに、改めて驚きました。どちらも、つくる物は違うとはいえ、長年、日本の誇る技術として培われ、引き継がれていった「ものづくり」のお手本のような工場でした。

私も、小学生のころ、子どもたちと同じように、社会科見学は楽しみでした。市内のパン工場を見学した記憶があります。たくさんのパンやケーキが作られる学校の近くの工場は、今もありますが、大きな自動車工場は、なくなってしまい、広大な跡地は、ショッピングセンターになってしまいました。最近30年でも、これだけの変化があり、その変化の速度は、早くなる一方です。いろいろな仕事は、何年後かにすべて「ロボット」化されて、人間の仕事はなくなってしまおうと、最近ではさかんに報道されています。技術の進歩とロボットの進歩により、ものづくりにおいては、それらが優先され、人間の力の及ぶ部分がますます小さくなっています。そうすると、見学している小学生にとって、これからはこのような、工場見学は、まるで「富岡製糸場」のように、「遺産見学」になってしまうかもしれません。

何をどのように学んでいくのか？ 例えば、コンピュータの機械は何でできているのか？ どのようにプログラミングされて、どうしてあのような複雑な動きができるのか？ これからの勉強は、そのような勉強も大切になります。しかし、人間のつくるものは、最終的に人間の目でチェックするそうです。「ものづくり」の最終チェックは、やはり人間がやるのだという話を聞いて、少しほっとしました。

また、工場見学の際に、ガラス越しに、作業をしている人に、手を振っている子どもたちがいました。もちろん工場の作業の人は仕事ですから、見学者の子どもたちとコミュニケーションをとることはできません。目に入った子どもたちの姿をどのように受け止めてくださっていたのか、とても気になりますが、すくなくとも、子どもたちの明るい表情で、心は温かくなっていったのではないのでしょうか。機械やコンピュータが介在するとはいえ、人と人とのつながり、コミュニケーションは、とても大切だと言うことは、これからも変わらないものであってほしいですし、私たち教職員も、その大切さをさらに育てていきたいと考えております。

1月の行事予定

10日	(火)	第3学期始業式・5時間授業	19日	(木)	発育測定(1)
11日	(水)	安全指導・発育測定(6)	21日	(土)	区図工展(～26日)
12日	(木)	発育測定(5)	23日	(月)	クラブ活動
13日	(金)	発育測定(4)	24日	(火)	ねりまお話の会(2・み)
14日	(土)	学校公開日・もちつき大会(6)			租税教室(6)
16日	(月)	避難訓練・委員会活動	25日	(水)	ねりまお話の会(1)
		読書旬間始	26日	(木)	お別れ遠足(み)
17日	(火)	発育測定(3・み)	27日	(金)	読書旬間終
18日	(水)	4時間授業・発育測定(2)	28日	(土)	区書き初め展(～29日)
		校内書き初め展(～27日)	30日	(月)	子ども相談週間始(～2/3)

